

ミュージックビジネス学科

2年次生

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	映像制作応用 I
担当講師名	中山章太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロモーション映像や TVCM、テレビ番組の制作、ディレクションなどの実務経験を持ちます。

授業内容

この科目は音楽ビジネスでの映像・動画の活用を理解・応用し、精度の高い映像コンテンツ制作スキルの獲得を目的とする演習形式の授業です。「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」を使用して、映像作品の制作全般を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Premiere と After Effects を駆使してエンタメならではの映像を作る人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① 映像制作の基礎 1 今年1年間で行う作業の流れを確認と前年度の復習
- ② 映像制作の基礎 2 プロモーションビデオの基礎を学ぶ
- ③ 新しい編集ソフトを学ぶ 1 アフターエフェクトの使い方を学ぶ 1
- ④ 新しい編集ソフトを学ぶ 2 アフターエフェクトの使い方を学ぶ 2
- ⑤ 実習（編集）1 課題となる映像作品の制作。個別指導 1
- ⑥ 実習（編集）2 課題となる映像作品の制作。個別指導 2
- ⑦ 課題の提出

中間試験評価方法・評価基準

授業態度：70%、提出物：30%

授業 Keyword：実際に作品を制作する前に必要な準備段階を身につける。

授業計画（8回目から15回目）

- ① 撮影の基礎知識 1 撮影に必要な知識を学ぶ
- ② 撮影の基礎知識 2 撮影に必要な知識を学ぶ
- ③ 実習（撮影）課題となる映像作品の制作（グループワーク）
- ④ 映像編集の基礎知識 1 映像編集に必要な知識を学ぶ
- ⑤ 映像編集の基礎知識 2 映像編集に必要な知識を学ぶ
- ⑥ 実習（編集）1 課題となる映像作品の制作（グループワーク）
- ⑦ 実習（編集）2 課題となる映像作品の制作（グループワーク）
- ⑧ 作品提出 鑑賞評価

期末試験評価方法・評価基準

授業態度：70%、試験：30%

授業 Keyword：映像制作に必要な基本を身につけ、グループごとに1つの作品を完成させ第3者目線で各映像作品を鑑賞・評価

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	映像制作応用Ⅱ
担当講師名	中山章太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロモーション映像や TVCM、テレビ番組の制作、ディレクションなどの実務経験を持ちます。

授業内容

この科目は音楽ビジネスでの映像・動画の活用を理解・応用し、精度の高い映像コンテンツ制作スキルの獲得を目的とする演習形式の授業です。「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」を使用して、映像作品の制作全般を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Premiere と After Effects を駆使してエンタメならではの映像を作る人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① 実習1 課題となる映像作品の制作（個人）
- ② 実習2 課題となる映像作品の制作（個人）
- ③ 実習3 課題となる映像作品の制作（個人）
- ④ 実習4 課題となる映像作品の制作（個人）
- ⑤ 実習5 課題となる映像作品の制作（個人）
- ⑥ 実習6 課題となる映像作品の制作（個人）
- ⑦ 作品提出

中間試験評価方法・評価基準

授業態度：70%、提出物：30%

授業 Keyword：個人で数秒程度の映像作品を制作、完成させる

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 実習（卒業制作）1 課題となる映像作品の制作、編集。個別指導
- ⑨ 実習（卒業制作）2 課題となる映像作品の制作、編集。個別指導
- ⑩ 実習（卒業制作）3 課題となる映像作品の制作、編集。個別指導
- ⑪ 実習（卒業制作）4 課題となる映像作品の制作、編集。個別指導
- ⑫ 実習（卒業制作）5 課題となる映像作品の制作、編集。個別指導
- ⑬ 実習（卒業制作）6 課題となる映像作品の制作、編集。個別指導
- ⑭ 実習（卒業制作）7 課題となる映像作品の制作、編集。個別指導
- ⑮ 作品提出 第三者目線で各映像作品を鑑賞・評価

期末試験評価方法・評価基準

授業態度：70%、提出物：30%

授業 Keyword：数分程度の映像作品を制作、第三者目線で各映像作品を鑑賞・評価

基本的な考え：映像編集の基本を身に付け、授業ではミュージックビジネス従事者としてのポイントを履修優れた提出物よりも出席率に重きをおきます。

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	Web デザイン I
担当講師名	丸山大樹
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽、アパレル業界でのデザイン、ウェブ制作、コンサルティングなどの実務経験を持ちます。

授業内容

この科目は一般的なプロモーションにおける Web サイトのデザインと運営を体験的に学び、その技術の獲得を目的とする演習形式の授業です。デザイン系アプリケーションや HTML・CSS を活用したページの作成スキルを学修します。

また、基本的なデザインの考え方、ノンデザイナーとしてのデザインへの取り組み方などを学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Web ページをデザインして、インターネット上で「伝える技術」を持つ人材。デザインの考え方の基礎。

授業計画（1回目から7回目）

- ① インターネットのマナー、仕組み インターネットの基本的な仕組みやマナー、PC の基本的な仕組みなどの話をします。
- ② Illustrator の使い方、デザインの考え方 1年次に学んだ Illustrator の復習を兼ねて簡単な課題を作成しつつ、操作の説明をします。デザインとはどういった考え方か？も解説します。
- ③ Photoshop の使い方、デザインの考え方 1年次に学んだ Photoshop の復習を兼ねて簡単な課題を作成しつつ、操作の説明をします。伝えるとはどうゆうことか？ということも解説します。
- ④ ホームページを作る上での基礎知識 ホームページを作る上での基礎知識としてホー

ムページとはこういった仕組みでできているのかの解説をします。

- ⑤ ホームページを作ってみる (HTML と CSS の解説) まずはホームページを構成している HTML と CSS の簡単な解説をします。それに基づき、フォーマットを使って実際にページを作ってみます。
- ⑥ ホームページを作ってみる (素材を作る) ホームページを作る上で必要な素材を Photoshop や Illustrator を使って作成します。
- ⑦ ホームページを作ってみる (課題の提出) 作成したホームページの提出。またそれを掲載するまでの流れ (サーバにアップし公開する) までの手順の解説をします。作成したホームページは一般公開するので、就活などに活用してください。

中間試験評価方法・評価基準

基本的な評価は授業内に出すテーマに合わせた制作課題の内容、出来栄にて評価します。欠席 (-2 点)、遅刻 (-1 点)、授業内での態度 (30%)、授業内で出された課題の提出率と評価 (35%)、クォーター末課題 (35%) の合計点数にて評価します。

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ Illustrator の使い方その 2 ウェブのデザインなどでも Illustrator は使われます。細かな設定や画像などの処理について学びます。自由曲線や文字を変形してロゴデザインを作成してみましょう。
- ⑨ Photoshop の使い方その 2 写真に対しての画像処理を学びましょう。色や明るさの調節、合成、修正など Photoshop でできることを大まかに解説します。
- ⑩ 良いデザインとは? デザインとは伝える技術です。ただ漠然と画像、文章を並べるのではなく、伝えたいものの優先順位などを考えてレイアウトしていきます。デザインについての基本的な解説を行います。
- ⑪ 紙とウェブの違い 紙とウェブのデザインはデータを作成する段階で違いがあります。その違いについての解説をします。
- ⑫ ウェブの深堀 (HTML と CSS) HTML という Web を制作する上で必要なプログラムの基礎を解説します。
- ⑬ ウェブの深堀 (HTML と CSS) 2 CSS という Web を制作する上で必要なプログラムの基礎を解説します。
- ⑭ ウェブの深堀 (HTML と CSS) とウェブライティング HTML と CSS という Web デザインの基礎を解説します。またウェブのライティングについての考え方についての解説をします。
- ⑮ 1 ページもののウェブサイトの作成 デザイン、レイアウトなどを考えながら HTML、CSS

で1ページもののホームページを作成し、提出。

期末試験評価方法・評価基準

基本的な評価は授業内に出すテーマに合わせた制作課題の内容、出来栄にて評価します。欠席 (-2点)、遅刻 (-1点)、授業内での態度 (30%)、授業内で出された課題の提出率と評価 (35%)、クォーター末課題 (35%) の合計点数にて評価します。

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	Web デザインⅡ
担当講師名	丸山大樹
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽、アパレル業界でのデザイン、ウェブ制作、コンサルティングなどの実務経験を持ちます。

授業内容

この科目は、引き続き春学期の授業を元に、ウェブサービスを作成する流れ、デザインの考え方について解説をします。またそれを拡散するための方法やツールなどの解説も織り交ぜて行きます。内容は各自のスキルやスケジュールによって流動的に変更される場合があります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「伝える技術」を活用して、レベルの高い情報の拡散が出来る人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① Web サービスの種類、LP のデザイン見本 各種ウェブサービスの解説。LP（ランディングページ）のデザイン見本制作を通じて、良いデザインとはどうゆうものか？を解説します。
- ② LP（ランディングページ）の制作 デザインの見本をもとに LP（ランディングページ）を作成します。作り方の考え方や流れを解説します。
- ③ LP（ランディングページ）の制作 2、WordPress の解説 HTML、CSS の解説をもとに LP ページを完成させます。CMS の代表、WordPress とはどうゆうものかの解説をします。
- ④ ウェブ企画書の作成と google サービスの解説 複数のページを持つサイト作成のため、ウェブの企画書を作成します。また、google のサービスについての解説をします。
- ⑤ 複数ページの制作（素材の制作） 複数ページの制作を開始します。まずはページに必要な画像素材を作成します。それに基づきツールの使い方を解説します。

- ⑥ 複数ページの制作 (HTML、CSS の解説) 複数ページの制作を開始します。HTML と CSS の解説をします。
- ⑦ 複数ページの完成 複数ページを完成させ、それを提出します。
- ⑧ クォーター末試験評価方法

中間試験評価方法・評価基準

基本的な評価は授業内に出すテーマに合わせた制作課題の内容、出来栄にて評価します。欠席 (-2 点)、遅刻 (-1 点)、授業内での態度 (30%)、授業内で出された課題の提出率と評価 (35%)、クォーター末課題 (35%) の合計点数にて評価します。

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ① 作成したサイトの評価と今までの復習 3Q 末の課題を展示し、それを皆で評価し投票します。これまでに学んだデザイン技術の復習の話をしてします。
- ② 作成したサイトの公評。卒業課題の解説 前回投票していただいた結果を元に、デザインの良し悪しについての解説をします。卒業制作用のサイト作成の準備をします。
- ③ 卒業課題ウェブサイト作成 (素材作り) 卒業制作で作成するサイトの素材 (画像) を作成、その解説をします。
- ④ サイトロゴの作成とトップページ制作 サイトに使用するロゴを作成します。またトップページの HTML と CSS の解説をします。
- ⑤ トップページの制作・下位ページの制作 トップページ、下位のページの制作 (HTML と CSS) の解説をします。
- ⑥ より見やすいデザインを目指す 作成したウェブをより、見やすく伝わりやすいデザインにするための、HTML、CSS の解説をします。
- ⑦ 卒業課題の提出 制作したウェブの提出。
- ⑧ 卒業課題の提出と評価 提出されたウェブサイトを皆で見て、それについての解説、最終評価を行います。完成したページはその後もウェブ上に掲載しておきますので、ポートフォリオとして活用可能です。

期末試験評価方法・評価基準

基本的な評価は授業内に出すテーマに合わせた制作課題の内容、出来栄にて評価します。欠席 (-2 点)、遅刻 (-1 点)、授業内での態度 (30%)、授業内で出された課題の提出率と評価 (35%)、クォーター末課題 (35%) の合計点数にて評価します。

特記事項

学科名	ミュージックビジネス
科目名	ビジネスイングリッシュ I
担当講師名	富沢みずき
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

英語学習者が遭遇する“話し手の言っていることが完全には理解できない状況”においてのコミュニケーション能力を、リスニングとスピーキング習得のためのテキストを使いながら学習します。ペアワークやグループワークをしながら、楽しく学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自然な英語の会話を聞き取ることに慣れ、自分の伝えたいことを自分の英語で発表し、コミュニケーションをとれる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ①Talking about school subjects you liked
- ②Giving instructions, describing how to cook
- ③Describing current actions
- ④Talking about the future
- ⑤Describing foods, fruits and vegetables
- ⑥Review
- ⑦Presentation

中間試験評価方法・評価基準

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Fluency with large numbers
- ⑨Asking for information
- ⑩Review
- ⑪Review
- ⑫Review
- ⑬Preparation for the presentation
- ⑭Preparation for the presentation
- ⑮Presentation

期末試験評価方法・評価基準

特記事項

学科名	ミュージックビジネス
科目名	ビジネスイングリッシュⅡ
担当講師名	富沢みずき
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

英語学習者が遭遇する“話し手の言っていることが完全には理解できない状況”においてのコミュニケーション能力を、リスニングとスピーキング習得のためのテキストを使いながら学習します。ペアワークやグループワークをしながら、楽しく学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自然な英語の会話を聞き取ることに慣れ、自分の伝えたいことを自分の英語で発表し、自信を持ってコミュニケーションをとれる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ①Talking about school subjects you liked
- ②Giving instructions, describing how to cook
- ③Describing current actions
- ④Talking about the future
- ⑤Describing foods, fruits and vegetables
- ⑥Review
- ⑦Presentation

中間試験評価方法・評価基準

平常点 60%、発表点 40%

評価は、授業態度、イントネーションや発音、英語表現を覚え相手に伝えようとする姿勢を重要視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Fluency with large numbers
- ⑨Asking for information

⑩Review

⑪Review

⑫Review

⑬Preparation for the presentation

⑭Preparation for the presentation

⑮Presentation

期末試験評価方法・評価基準

平常点 60%、発表点 40%

評価は、授業態度、イントネーションや発音、英語表現を覚え相手に伝えようとする姿勢を重要視します。

特記事項

学科名	ミュージックビジネス
科目名	ビジネスイングリッシュⅢ
担当講師名	富沢みずき
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

ビジネスにおけるスピーキングとリスニングの2つのスキルに焦点をあて、テキストを使いながら学習します。会社紹介、仕事内容紹介、電話の掛け方等、ビジネスシーンで使う英語をペアワークやグループワークをしながら学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ビジネスシーンのリスニングと英語表現を学び、コミュニケーションをとれる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ①Introducing People
- ②Introducing People
- ③Describing companies
- ④Describing companies
- ⑤Having telephone conversations
- ⑥Having telephone conversations
- ⑦Presentation

中間試験評価方法・評価基準

平常点 60%、発表点 40%

評価は、授業態度、イントネーションや発音、英語表現を覚え相手に伝えようとする姿勢を重要視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Describing occupations
- ⑨Describing occupations
- ⑩Describing time and schedules
- ⑪Describing time and schedules
- ⑫Making small talk

⑬Making small talk

⑭Review

⑮Presentation

期末試験評価方法・評価基準

平常点 60%、発表点 40%

評価は、授業態度、イントネーションや発音、英語表現を覚え相手に伝えようとする姿勢を重要視します。

特記事項

学科名	ミュージックビジネス
科目名	ビジネスイングリッシュⅣ
担当講師名	富沢みずき
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

ビジネスにおけるスピーキングとリスニングの2つのスキルに焦点をあて、テキストを使いながら学習します。会社紹介、仕事内容紹介、電話の掛け方等、ビジネスシーンで使う英語をペアワークやグループワークをしながら学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ビジネスシーンのリスニングと英語表現を学び、コミュニケーションをとれる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ①Working with large numbers
- ②Working with large numbers
- ③Describing past work
- ④Describing past work
- ⑤Explaining procedures
- ⑥Explaining procedures
- ⑦Presentation

中間試験評価方法・評価基準

平常点 60%、発表点 40%

評価は、授業態度、イントネーションや発音、英語表現を覚え相手に伝えようとする姿勢を重要視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Describing location
- ⑨Describing location
- ⑩Describing food
- ⑪Describing food
- ⑫Describing future plans

⑬Describing future plans

⑭Review

⑮Presentation

期末試験評価方法・評価基準

平常点 60%、発表点 40%

評価は、授業態度、イントネーションや発音、英語表現を覚え相手に伝えようとする姿勢を重要視します。

特記事項

学科名	ミュージックビジネス
科目名	インターンシップ I
担当講師名	学科講師
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

企業研究・就職活動の中において協力企業にて実際の仕事に従事し、様々な経験値を蓄積する事で、将来の就業へ向けた足がかりとなる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際の就業を経験し、社会で必要とされている人材像を理解する

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

インターンシップに参加し、報告を行う事で評価を行う

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

インターンシップに参加し、報告を行う事で評価を行う

特記事項

学科名	ミュージックビジネス
科目名	インターンシップⅡ
担当講師名	学科講師
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

企業研究・就職活動の中において協力企業にて実際の仕事に従事し、様々な経験値を蓄積する事で、将来の就業へ向けた足がかりとなる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際の就業を経験し、社会で必要とされている人材像を理解する

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

インターンシップに参加し、報告を行う事で評価を行う

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

インターンシップに参加し、報告を行う事で評価を行う

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	プログラミング I
担当講師名	河岡伸吾
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手インターネット広告企業でソフトウェアエンジニアとしてスマートフォンアプリの開発に従事したのち、WEB 系のスタートアップでのインターネットサービスの開発などに携わっています。

授業内容

この科目はソフトウェアをプログラミングする技術の獲得を目的とする演習形式の授業です。スクリプト言語「JavaScript」を使用してアプリを開発、実際にアプリの制作を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アプリケーションの開発を通して、プログラミング的思考力を持ち、活用できる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① コンピュータプログラムの基礎 プログラミングの可能性について
- ② プログラムで絵をかいてみよう①
- ③ プログラムで絵をかいてみよう②
- ④ プログラムの書き方①
- ⑤ プログラムの書き方②
- ⑥ 中間課題作成
- ⑦ 中間課題発表

中間試験評価方法・評価基準

平常点 50%、課題 50%。 欠席 1 回につきマイナス 3 点

授業計画（8回目から15回目）

- ① プログラムの書き方③

- ② プログラムの書き方④
- ③ アニメーション
- ④ インタラクション制御①
- ⑤ プログラミングの可能性の広げ方 (API を使うとできること)
- ⑥ 期末課題
- ⑦ 期末課題
- ⑧ 期末課題発表

期末試験評価方法・評価基準

平常点 50%、課題 50%。 欠席 1 回につきマイナス 3 点

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	プログラミングⅡ
担当講師名	河岡伸吾
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手インターネット広告企業でソフトウェアエンジニアとしてスマートフォンアプリの開発に従事したのち、WEB系のスタートアップでのインターネットサービスの開発などに携わっています。

授業内容

この科目はアプリケーションをプログラミングする技術の獲得を目的とする演習形式の授業です。スクリプト言語「JavaScript」を使用してアプリを開発、実際にアプリの制作を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アプリケーションの開発を通して、プログラミング的思考力を持ち、活用できる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション/プログラムの書き方を復習
- ① インタラクション制御②
- ② プログラムの効率的な書き方①
- ③ プログラムの効率的な書き方②
- ④ サウンドビジュアライゼーション
- ⑤ 中間課題作成
- ⑥ 中間課題発表

中間試験評価方法・評価基準

平常点 50%、課題 50%。 欠席 1 回につきマイナス 3 点

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ UI デザイン/ワイヤーフレームの作成①
- ⑨ UI デザイン/ワイヤーフレームの作成②
- ⑩ 画面レイアウト
- ⑪ 画面レイアウトとプログラムの連携①
- ⑫ 画面レイアウトとプログラムの連携②
- ⑬ 期末課題制作
- ⑭ 期末課題制作
- ⑮ 期末課題発表

期末試験評価方法・評価基準

平常点 50%、課題 50%。 欠席 1 回につきマイナス 3 点。

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	日本の A&R I
担当講師名	富澤一誠
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚美学園大学副学長兼任。1971年、東大在学中に音楽評論活動をスタート。以来、Jポップ専門の音楽評論家としてレコード大賞審査員、同アルバム賞審査委員長、日本作詩大賞審査委員長を歴任。音楽業界では幅広く評論活動を展開し、現在も音楽総合プロデューサー&パーソナリティ&コメンテーターとして活躍中。

授業内容

この科目は、日本の音楽の歴史や流行・風潮を理解して、音楽文化の知識獲得を目的とする講義形式の授業です。1960年代初頭にアメリカのコンテンポラリー・フォークが日本に入ってきてから、日本にもフォーク・ムーブメントが起こり、それらがニューミュージックとなりビジネスとなるまでのプロセスを学びます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽の歴史を知ることで、ミュージック・シーンの今後を、予測できるプロデュース力を持つ人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① アメリカン・コンテンポラリー・フォーク キングストン・トリオがもたらしたもの
- ② カレッジ・フォーク 関東の学生たちがコピーを始める
- ③ 関西フォーク 高石ともや、岡林信康がオリジナルを作り始める
- ④ フォーク・ムーブメント 吉田拓郎の出現でブームが始まる
- ⑤ 叙情派フォーク かぐや姫、井上陽水などがヒットをとばす
- ⑥ 黄金のフォーク・ブーム 山本コータローとウィークエンド、グレープ、ふきのとうなど
- ⑦ “理解の確認レポート提出” カレッジ、フォーク、関西フォーク、フォーク・ブームの

総括

中間試験評価方法・評価基準

レポート評価。出席率。そして発言の積極性。

平常点：20% 受講態度：30% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 変革期 フォーライフ・レコード設立
- ⑨ 変革期 つま恋6万人コンサート
- ⑩ ニューミュージック ユーミンの台頭
- ⑪ ニューミュージック第3世代 原田真二、Char、ツイスト、渡辺真知子など
- ⑫ 歌の甲子園“ポップコン” 中島みゆきなどポップコン全盛期
- ⑬ 叙情派フォーク復活 松山千春、長渕剛の台頭
- ⑭ CMとニューミュージック CMタイアップからヒット連発
- ⑮ “理解の確認 レポート提出” フォークからニューミュージックへという大きな流れの再確認

期末試験評価方法・評価基準

レポート評価。出席率。そして発言の積極性。

平常点：20% 受講態度：30% 試験：50%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	日本の A&R II
担当講師名	富澤一誠
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚美学園大学副学長兼任。1971年、東大在学中に音楽評論活動をスタート。以来、Jポップ専門の音楽評論家としてレコード大賞審査員、同アルバム賞審査委員長、日本作詩大賞審査委員長を歴任。音楽業界では幅広く評論活動を展開し、現在も音楽総合プロデューサー&パーソナリティ&コメンテーターとして活躍中。

授業内容

秋学期は80年代のポップス・ブーム、バンド・ブーム、90年代の「歌のルネッサンス」、やがてR&B、ダンスミュージック・ブームとなった過程や、テクノ・ヒップホップなどあらゆるジャンルがそろい百花繚乱となって現在に至っているミュージック・シーンを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽の歴史を知ることで、ミュージック・シーンの今後を、予測できるプロデュース力を持つ人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① ニュー・ウェーブ RCサクセッション、シーナ&ロケット台頭
- ② テクノ・ポップ YMOの台頭からテクノ・ブーム
- ③ 第3期女性シンガー・ブーム 歌心を大切にしようという流れ
- ④ 女性ロッカー 白井貴子、中村あゆみ、渡辺美里の台頭
- ⑤ レディース・バンド レベッカ、プリンセス・プリンセスなど
- ⑥ バンド・ブーム BOØWYをきっかけに空前のバンド・ブームに
- ⑦ “理解の確認 レポート提出” ニュー・ウェーブ、テクノ・ポップ・ブームから本格的なロック時代へ

中間試験評価方法・評価基準

レポート評価。出席率。そして発言の積極性。

平常点：20% 受講態度：30% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 歌のルネッサンス KAN「愛は勝つ」から流れが変わる
- ⑨ 歌もの復活 小田和正「ラブ・ストーリーは突然に」、CHAGE&ASKA「SAY YES」大ヒット
- ⑩ ビーイング系ブーム ZARD、WANDS などヒット連発
- ⑪ 小室系ブーム TRF、安室奈美恵、華原朋美などブレイク
- ⑫ ジャパニーズ R&B ブーム MISIA、宇多田ヒカル、平井賢など台頭
- ⑬ ダンスミュージック・ブーム エイベックス系アーティストの台頭
- ⑭ J ヒップホップ・ブーム 空前のヒップホップ・ブーム到来
- ⑮ “理解の確認 レポート提出” あらゆるジャンルが出つくした感のあるミュージック・シーンの今後の展開は？

期末試験評価方法・評価基準

レポート評価。出席率。そして発言の積極性。

平常点：20% 受講態度：30% 試験：50%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	世界の A&R I
担当講師名	渡辺 博
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社2社(ポニーキャニオン、バップ)で30年以上制作ディレクターとして多数のアーティストを担当し、音楽制作部長として管理職を務めた実務経験を持ちます。

授業内容

この科目は海外の音楽の歴史的背景や流行を分析して音楽文化の知識獲得を目的とする講義形式の授業です。世界のポピュラーソングが生まれ、時代や世相によって変わっていく歴史を、歌詞、曲、アーティストの三面で学修します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

世界(海外)のルーツミュージックを知り、より深い音楽の知識を取得した、音楽業界で活躍できる持つ人材

授業計画 (1回目から7回目)

- ① オリエンテーションと学生の自己紹介 講師と学生全員の自己紹介。本授業の今後の内容、および評価についての説明
- ② “スコットランドとアイルランド、そしてイングランド#1” ポピュラーソングの原点であるスコットランドとアイルランド民謡さらにイングランド民謡を学びます。
「Danny Boy」ほか
- ③ “スコットランドとアイルランド、そしてイングランド#2” ポピュラーソングの原点であるスコットランドとアイルランド民謡さらにイングランド民謡を学びます。
「Auld Lang Syne」ほか
- ④ 英国からアメリカ大陸へ “アメリカン・ミュージックのルーツとその時代背景を学びます。「Barbara Allen」ほか”
- ⑤ アメリカン・ミュージックの成立 “アメリカン・ミュージックのルーツとその時代背景を学びますフォークソング、カントリーミュージックの魅力って? 「500miles」ほか”

- ⑥ もうひとつのアメリカン・ミュージック ジャズの誕生とポピュラーソングの発展。
「Moon River」ほか
- ⑦ テスト 筆記試験

中間試験評価方法・評価基準

授業態度（出欠席含む）30%、試験 70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ロックンロールの誕生 “ロックンロールが世界を変えた その楽曲は？アーティストは？Elvis Presley ほか”
- ⑨ POPS、FOLK、SOUL への新展開#1 “50’ s から 60’ s の POPS を知る Carol King ほか”
- ⑩ POPS、FOLK、SOUL への新展開#2 “50’ s から 60’ s の FOLK を知る#1 「天使のハンマー」ほか”
- ⑪ POPS、FOLK、SOUL への新展開#3 “50’ s から 60’ s の FOLK を知る#2 「花はどこへ行った」ほか”
- ⑫ POPS、FOLK、SOUL への新展開#4 “50’ s から 60’ s の SOUL を知る#1 James Brown ほか”
- ⑬ POPS、FOLK、SOUL への新展開#5 “50’ s から 60’ s の SOUL を知る#2 Sam Cooke ほか”
- ⑭ マーギー・ビート～ビートルズの登場#1 “ビートルズが生まれた音楽的背景と時代背景を解説します The Hollies ほか”
- ⑮ テスト 筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

授業態度（出欠席含む）30%、試験 70%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	世界の A&R II
担当講師名	渡辺 博
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社2社(ポニーキャニオン、バップ)で30年以上制作ディレクターとして多数のアーティストを担当し、音楽制作部長として管理職を務めた実務経験を持ちます

授業内容

秋学期ではポップミュージックの変遷を題材に、ビートルズの登場、そしてボブ・ディランの登場、ロックがどうやって生まれたのかという1970年代以降のポップミュージックの多様性を、音と映像によって学修していきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

ビートルズ以降、多様化し、進化してきたポップスやロックを体感し、幅広い音楽の知識を取得した、音楽業界で活躍できる持つ人材

授業計画 (1回目から7回目)

- ① マーギー・ビート～ビートルズの登場#2 “ビートルズが生まれた音楽的背景と時代背景「Please Please Me」ほか”
- ② ビートルズのすべて#1 イギリスBBC製作のドキュメント映像を鑑賞、解説#1
- ③ ビートルズのすべて#2 イギリスBBC製作のドキュメント映像を鑑賞、解説#2
- ④ ブリティッシュ・インベイジョン#1 イギリスのロックがアメリカに大きな影響を与えた、その詳細を体感します。ソウル・ミュージック編 マービン・ゲイほか
- ⑤ ブリティッシュ・インベイジョン#2 イギリスのロックがアメリカに大きな影響を与えた、その詳細を体感します。
- ⑥ フォーク、アメリカン・ロック編 ボブ・ディランほか
- ⑦ ロックの時代へ#1 フラワー・ムーブメントと呼ばれる時代・・・どのような音楽が生

まれたのか？The Beach Boys ほか

- ⑧ ロックの時代へ#2 ウッドストックの野外イベントの成功とその後のミュージック・シーンに与えた影響は？ジミヘンほか

中間試験評価方法・評価基準

授業態度（出欠席含む）50% 平常点 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ポスト・ビートルズのイギリス#1 70'sのイギリスのミュージック・シーン 60年代の音楽がどのように進化したのか？#1 Queen ほか
- ⑨ ポスト・ビートルズのイギリス#2 70'sのイギリスのミュージック・シーン 60年代の音楽がどのように進化したのか？#2 Pink Floyd ほか
- ⑩ ポスト・ビートルズのアメリカ#1 70'sのアメリカのミュージック・シーン 60年代の音楽がどのように進化したのか？ウエスト・コースト編 The Eagles ほか
- ⑪ ポスト・ビートルズのアメリカ#2 70'sのアメリカのミュージック・シーン 60年代の音楽がどのように進化したのか？イースト・コースト編 Billy Joel ほか
- ⑫ ポスト・ビートルズのアメリカ#3 70'sのアメリカのミュージック・シーン 60年代の音楽がどのように進化したのか？総集編 Bruce Springsteen ほか
- ⑬ ローリング・ストーン誌が選ぶ世界で最も偉大なアーティスト100#1 授業の総まとめ。トップ20に名を連ねるアーティストは誰？
- ⑭ ローリング・ストーン誌が選ぶ世界で最も偉大なアーティスト100#2 授業の総まとめ。トップ20に名を連ねるアーティストは誰？
- ⑮ テスト 筆記試験

期末試験評価方法・評価基準

授業態度（出欠席含む）30%、試験 70%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ライブ&コンサートⅠ
担当講師名	竹之内康弘
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は現在ホールコンサートの舞台監督業務を継続中であることから、その実務経験を授業に活かします。さらにレコードメーカー、マネジメント事務所での実務経験を活かして自社レーベルを立上げバンドプロデュースの実績があります。

授業内容

この科目はライブハウスの機材で音響・照明の知識を学び、そこに関わる業務の知識獲得を目的とする演習形式の授業です。渋谷のライブハウス「O-nest」でその仕組みを体験的に学び、最終的にはライブイベントを企画し運営する技術を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

会場や機材、予算等を理解してステージ制作・ステージ運営を実践的に行える人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① ライブハウスの役割 ライブハウスの機能をチェック
- ② ライブハウスの概要Ⅰ ステージチェック
- ③ ライブハウスの概要Ⅱ PA 機材について
- ④ ライブハウスの概要Ⅲ 照明機材について
- ⑤ ライブハウスの概要Ⅳ コンサート売上について
- ⑥ コンサートに必要な資料作成 仕込み図 セッティング表
- ⑦ 課題

中間試験評価方法・評価基準

ライブハウスやホールがどういうものなのかを体感し、基礎知識が獲得できているか。

出席数と授業態度、積極性を重視します。

平常点：20% 試験：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コンサート舞台の進行1 音響オペレーターの仕事
- ⑨ コンサート舞台の進行2 音響オペレーターから見る仕事の流れ
- ⑩ コンサート舞台の進行3 照明オペレーターの仕事
- ⑪ コンサート舞台の進行4 照明オペレーターから見る仕事の流れ
- ⑫ ステージ設営 ステージ機材の機能と役割
- ⑬ ステージ設営 ステージ機材の配置
- ⑭ ライブハウスによる違い 比較研究
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

ライブハウスの形態、機材など実際に営業を行う知識を獲得しているか。

出席数と授業態度、理解度を重視します。

平常点：20% 試験：80%

特記事項

授業は渋谷のライブハウス「O-nest」を中心に行います。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ライブ&コンサートⅡ
担当講師名	竹之内康弘
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は現在ホールコンサートの舞台監督業務を継続中であることから、その実務経験を授業に活かします。さらにレコードメーカー、マネジメント事務所での実務経験を活かして自社レーベルを立上げバンドプロデュースの実績があります。

授業内容

春学期で学んだ知識、体験をもとに、さらに深くライブハウス・コンサートの実務作業を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

会場や機材、予算計上をふまえてステージ制作・ステージ運営を実践的に行える人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① ステージ制作準備 ステージ資料を見て、リハーサルの手順を組み立てる
- ② リハーサルの手順
- ③ ステージ制作実践1 ソロボーカリスト リハーサル
- ④ ステージ制作実践2 バンド リハーサル
- ⑤ ステージ制作の応用1 セッティング図を元にセッティングを再現
- ⑥ ステージ制作の応用2 セッティング図を元にセッティングを再現
- ⑦ 課題 セットリストの作成

中間試験評価方法・評価基準

実際に機材を理解しているか、ステージ作りについて細かい知識が獲得しているか。出席数と授業態度、積極性を重視します。

平常点：20% 課題：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ステージ制作 DJ 機材を使用してステージ機材を組む
- ⑨ 舞台演出 照明を実際に操作し、機材について知る
- ⑩ 舞台プロデュース DJ 機材と照明機材を使用したイベントシミュレーション
- ⑪ オリジナルイベントの企画書作成
- ⑫ ライブ制作① 0-nest にてイベントを実施
- ⑬ ライブ制作② 0-nest にてイベントを実施
- ⑭ ライブ制作③ 0-nest にてイベントを実施
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

今後の音楽業界での仕事において、ライブハウスでの経験をどう生かしていくか。

出席数と授業態度、理解度を重視します。

平常点：20% 試験：80%

特記事項

授業は渋谷のライブハウス「O-nest」を中心に行います。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	コンサートプロデュース I
担当講師名	竹之内康弘
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は現在ホールコンサートの舞台監督業務を継続中であることから、その実務経験を授業に活かします。さらにレコードメーカー、マネジメント事務所での実務経験を活かして自社レーベルを立上げバンドプロデュースの実績があります。

授業内容

この科目は1年次の「コンサートビジネス I & II」の延長として、より精度の高いライブイベントを実施する企画・運営スキルの獲得を目的とする演習形式の授業です。ブッキングやプロモーションも考慮しながら全員の共有意識で企画を成功に導く過程を体験的に学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ライブ制作の過程、学外での会場下見・担当者交渉、宣伝活動を体験し、滞りなくイベントが企画・運営できる即戦力人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① コンサートイベント企画
- ② 企画班の立ち上げ コンサート制作に必要な役割
- ③ 企画内容の検討 企画ライブの内容 出演者形態、方向性
- ④ 売上目標の設定とそのための出演者条件
- ⑤ 宣伝プラン
- ⑥ 企画書の作成
- ⑦ イベント企画概要の作成 イベント詳細及び出演者候補を検討

中間試験評価方法・評価基準

コンサート企画書・概要書の評価と出席数と授業態度、協調性を重視します。

平常点 20% 試験：80%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 出演打診書の作成と出演交渉
- ⑨ 出演交渉と宣伝デザイン
- ⑩ ブッキング状況の報告とその対策
- ⑪ ブッキング進捗確認 デザイン作成物の内容や方向性のチェック
- ⑫ 出演順や演出について本番の進行イメージを固め
- ⑬ ブッキング状況の確認
- ⑭ 出演者決定と情報解禁
- ⑮ 筆記試験 設定された条件によるオリジナルイベントの立案

期末試験評価方法・評価基準

出席数と授業態度、協調性を重視します。

平常点 20% 試験：80%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	コンサートプロデュースⅡ
担当講師名	竹之内康弘
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は現在ホールコンサートの舞台監督業務を継続中であることから、その実務経験を授業に活かします。さらにレコードメーカー、マネジメント事務所での実務経験を活かして自社レーベルを立上げバンドプロデュースの実績があります。

授業内容

春学期で準備した企画と実務活動をもとに、卒業制作コンサートを実施します。さらに、コンサートや音楽事情に対する研究をして自分の意見をまとめ、それを論文形式にして最終クォーターで完成させます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

卒業制作コンサートを学生自身で企画制作し、予算内・スケジュール内に滞りなく企画・運営できる即戦力人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① 本番に向けての準備：資料作成
- ② 本番に向けての準備：宣伝 宣伝プラン
- ③ 本番に向けての準備：宣伝 フライヤー制作
- ④ 本番に向けての準備：WEB SNS を利用した施策と本番に向けての準備
- ⑤ 本番に向けての準備：タイムテーブル 進行スケジュールを作成
- ⑥ 本番に向けての準備：動員対策 イベントを盛り上げるための対策会議
- ⑦ 本番に向けての準備：動員対策 出演者のファン以外の客動員を考える

中間試験評価方法・評価基準

出席数と授業態度、協調性を重視します。

平常点：50% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 本番に向けての準備：資料の確認 タイムテーブル、セット図面、受付用資料、進行表
- ⑨ 直前の確認事項 詳細の最終確認
- ⑩ イベントライブ当日本番までの動き
- ⑪ イベントライブ実施
- ⑫ トラブルシューティング
- ⑬ イベントライブ実施後の反省会 振り返り
- ⑭ 報告書の作成 営業伝票 実績報告書の作成 イベント実績を数値化
- ⑮ まとめ

期末試験評価方法・評価基準

出席数と授業態度、協調性を重視します。

平常点 50% 試験：50%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	アーティストマネジメント I
担当講師名	渡邊孝徳
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽制作歴 20 年、アイドルグループからバンドやミュージカルまで数多くのジャンルの音源・CD を制作し、売り上げ 100 万枚やチャート上位に達する楽曲を手掛けてきました。

授業内容

この科目はアーティストに寄り添う「マネジメント」において、楽曲制作や人材育成の体験を目的とする演習形式の授業です。マネージャーとしてコンセプトワークから発掘・育成のストーリーを立て、実際に人材にアプローチして共に成長していく過程を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヒットする人材に育成して、売り込みができる即戦力マネージャー。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 授業概要の紹介、マネジメントの現場とは？
- ② 3つの現場について（制作・宣伝・ライブ）
- ③ 4つの売り方について（音源・パフォーマンス・マーチャンダイズ・ファンクラブ）
- ④ 音楽ビジネス論 曲のヒットとアーティストのブレイクポイント
- ⑤ 音楽ビジネスの現在 デジタル対応のマネジメントを考える
- ⑥ 音楽制作と人材育成を多面的に構成すること
- ⑦ オンライン時代のプロモーション展開とは？（学内行事と年度末公開への展開）

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解とその成果を評価対象とします。

授業態度 60%、マネジメントの理解 40%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 学内外に対しての人材マネジメントコンセプトを考える
- ⑨ マネジメント企画にまとめて、発掘・育成スケジュールを考えてみる
- ⑩ 人材発掘・スカウティングを学内外でスタートする
- ⑪ 他学科や SNS にもプレゼン枠を広げ、アプローチを進める
- ⑫ 候補人材とのコンタクトを始める
- ⑬ 候補人材とのコミュニケーションを進める
- ⑭ 業界に売り込みたい人材を絞り込んで決定する
- ⑮ 人材の許可のもと、マネジメントをスタート、SNS でプロセスを公開

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解とその成果を評価対象とします。

授業態度 60%、演習成果 40%

特記事項

学内では学内行事出場を目指したマネジメントの取り組みをします。

同時に学年末に SNS で学内外アーティスト&マネージャーのプレゼンを行います。

授業の中で YouTube と Twitter でのプロモーション展開も行います。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	アーティストマネジメントⅡ
担当講師名	渡邊孝徳
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽制作歴 20 年、アイドルグループからバンドやミュージカルまで数多くのジャンルの音源・CD を制作し、売り上げ 100 万枚やチャート上位に達する楽曲を手掛けてきました。

授業内容

この科目はアーティストに寄り添う「マネジメント」において、楽曲制作や人材育成の体験を目的とする演習形式の授業です。マネージャーとして人材を開発・育成しながら共に成長していく過程を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヒットする人材に育成して、売り込みができる即戦力マネージャー。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① コンセプトをもとに開発・育成方法を人材と共に確認する
- ② 業界に売り込むための現状のレベルを判断して育成スケジュールをたてる
- ③ 人材とのコミュニケーションをもとに育成に必要なことをまとめる
- ④ 能力開発のために必要なアドバイスやサジェスチョンをスタートする
- ⑤ 人材とのコミュニケーションをとりながら育成を進めていく
- ⑥ 目標に対しての微調整を加えながら育成を進めていく
- ⑦ プレゼン素材（音源・写真・映像）の準備を進める

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解とその習得度成果を評価対象とします。

授業態度 60%、習得度成果 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ここまでの育成状況を暫定的に評価して、プロモーションも進めていく
- ⑨ プレゼンに向けての方向と方法の確認をする
- ⑩ 人材とコミュニケーションをとりながら育成を深めていく
- ⑪ プレゼン素材の加工とまとめを行う
- ⑫ 育成状況をみて業界レベル対しての過不足を見る
- ⑬ プレゼン資料の最終確認と育成具合の到達度確認
- ⑭ プレゼンに向けてのリハーサルを行う
- ⑮ 学年末評価：発掘した人材がどこまで業界に売り込める人材となれたか

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解とその習得度成果を評価対象とします。

授業態度 60%、成果結果 40%

特記事項

学内行事と年度末 SNS 公開を事前にプロモーションして注目度を上げます。

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ライティングスキル応用 I
担当講師名	元生真由
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ライター、編集者、インタビュアーとしての実務経験を持ちます。

授業内容

この科目は、取材などで情報を収集して文字要素に編集・校正を行うスキル獲得を目的とした演習形式の授業です。ディスクレビュー、ライブレポート、コラム執筆など様々な文書作成を学修します。また音源の紙資料作成、アーティストへのインタビューを実際に行い、取材者・事務所・レコード、会社各側の役割を体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

文章作成において、情報分析と表現力を兼ね備えた人材。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション ・この講義で学ぶこと ・校正/校正記号について
- ② 情報を提供できる文章 ・雑誌やファンクラブ会報、パンフレットを構成する文章を研究しレポートにまとめる
- ③ 原稿書きと校正1 ・プロフィール文を執筆、校正記号を使って推敲
- ④ 原稿書きと校正2 ・ディスクレビューを執筆、校正記号を使って推敲
- ⑤ 原稿書き ・ファンクラブの会報、雑誌、web 記事など媒体を想定しライブレポートを執筆
- ⑥ 紙資料1 ・各レコード会社や事務所による CD 宣伝用の紙資料を比較/研究し、オリジナルの紙資料を作成
- ⑦ 紙資料2 ・1クォーターで書いた原稿も使用し、紙資料を作成→提出・クォーター末課題とする

中間試験評価方法・評価基準

- ・ 出欠および平常点 30% (欠席はマイナス 2 点)
- ・ 授業ごとに提出する文章 40% (10 点満点×4 回)
- ・ クォーター末試験 30%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧ インタビュー概論 ・アーティスト取材で大切なこと、準備や流れ、原稿執筆、事務所チェック、入稿方法についてを解説
- ⑨ アポイントと打ち合わせ ・事務所へのアポイント、打ち合わせなど取材周りの実務
- ⑩ インタビュー準備 1 ・アーティスト研究
- ⑪ インタビュー準備 2 ・質問内容を考える ・役割分担
- ⑫ インタビュー準備 3 ・質問のブラッシュアップ ・各自の役割から取材の流れの確認
- ⑬ 校内インタビュー ・アーティストを学校に招いてのインタビューを実施
- ⑭ 文字起こし ・録音した会話を文字に起こす
- ⑮ インタビューページ作成 ・インタビュー原稿を作成 ・写真やキャッチコピーを入れ Illustrator でページにし提出 (クォーター末課題とする)

期末試験評価方法・評価基準

- ・ 出席および平常点 30% (欠席はマイナス 2 点)
- ・ 第 15 回の授業の提出物 (A4 のインタビューページ) 70%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ライティングスキル応用Ⅱ
担当講師名	元生真由
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ライター、編集者、インタビュアーとしての実務経験を持ちます。

授業内容

秋学期は、印刷物全般についての知識を獲得して、学生それぞれが 12 ページの雑誌/パンフレット/会報を制作します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ファンクラブ会報等の編集者、ライターとして、紙媒体の知識を備えた人材。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 雑誌の構成 ・雑誌が作られる過程、台割、判型を理解する
- ② コラム執筆 1 ・コラムを書く
- ③ コラム執筆 2 ・コラムを書く
- ④ 台割作成 ・冊子の台割を作成
- ⑤ ラフ作成 ・各ページごとに細かいラフを作成
- ⑥ 原稿執筆 1 ・ラフに沿って原稿を書く
- ⑦ 原稿執筆 2 ・ラフに沿って原稿を書く

中間試験評価方法・評価基準

- ・出欠および平常点 30%（欠席はマイナス 2 点）
- ・授業ごとの提出物 70%
- ・クオーター末試験は無し

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 原稿執筆3 ・ラフに沿って原稿を書く
- ⑨ 素材集め1 ・ラフに沿って、必要な画像素材等を集める
- ⑩ 素材集め2 ・ラフに沿って、必要な画像素材等を作成する
- ⑪ フリーペーパー作成1 ・Illustrator でフリーペーパーを作成
- ⑫ フリーペーパー作成2 ・Illustrator でフリーペーパーを作成
- ⑬ フリーペーパー作成3 ・Illustrator でフリーペーパーを作成
- ⑭ フリーペーパー作成4 ・Illustrator でフリーペーパーを作成
- ⑮ 課題提出による試験 ・プリントし製本したフリーペーパーを提出

期末試験評価方法・評価基準

- ・出欠および平常点30%（欠席はマイナス2点）
- ・第15回で提出のフリーペーパー70%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	MTV 制作 I
担当講師名	磯田昌宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、大手ハウスメーカーの PV、アーティスト MV 制作に従事、TBS、テレビ朝日のゴールデン枠のバラエティー番組制作、テレビ東京の報道番組制作、テレビの演出に携わる。通販番組の制作、ナショナルクライアントの CM 制作、地方創生の企画から演出等にも従事。

授業内容

この科目は、メディア媒体（YouTube）でのプロモーションに注目した情報作成スキルの獲得を目的とした授業。メディアから得た情報を見極め、効率よく効果的な情報発信を体験的に学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

YouTube など SNS に対して随時アプローチし、高評価を得られる人材

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① オリエンテーション
- ② 好きな動画プレゼン 1
- ③ 好きな動画プレゼン 2
- ④ YouTube にアップするまでの流れ 1
- ⑤ YouTube にアップするまでの流れ 2
- ⑥ 動画分析と考察 1
- ⑦ 動画分析と考察 2

中間試験評価方法・評価基準

平常点：60%、課題：20%、受講態度 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ チャンネル開設「テーマの作り方」
- ⑨ チャンネル開設「ターゲティング」
- ⑩ チャンネル開設とワークシート
- ⑪ 動画制作演習 1
- ⑫ 動画制作演習 2
- ⑬ 動画制作演習 3
- ⑭ SNS 分析
- ⑮ SNS マーケティング演習

期末試験評価方法・評価基準

平常点：60%、課題：20%、受講態度 20%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	MTV 制作Ⅱ
担当講師名	磯田昌宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、大手ハウスメーカーの PV、アーティスト MV 制作に従事、TBS、テレビ朝日のゴールデン枠のバラエティー番組制作、テレビ東京の報道番組制作、テレビの演出に携わる。通販番組の制作、ナショナルクライアントの CM 制作、地方創生の企画から演出等にも従事。

授業内容

秋学期では YouTube チャンネルをスタートさせ（音楽）動画制作・動画配信の基礎を活かし、どのようにして視聴者数・登録者数を増やすかを考えていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

視聴回数 1000 回を超えるコンテンツを制作・配信できる人材

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 動画編集アプリ 1
- ② 動画編集アプリ 2
- ③ 新しい動画編集ソフト 1
- ④ 新しい動画編集ソフト 2
- ⑤ エフェクト、テロップ・カラーグレーディング 1
- ⑥ エフェクト、テロップ・カラーグレーディング 2
- ⑦ 課題提出 仕上げ/アップロード

中間試験評価方法・評価基準

平常点：60%、課題：20%、受講態度 20%

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧ 動画マーケティング 1
- ⑨ 動画マーケティング 2
- ⑩ 心理学 1
- ⑪ 心理学 2
- ⑫ SNS マーケティング 1 (行動経済学)
- ⑬ SNS マーケティング 2 (エンゲージメント)
- ⑭ 再生数を意識した動画制作 1
- ⑮ 再生数を意識した動画制作 2

期末試験評価方法・評価基準

平常点：60%、課題：20%、受講態度 20%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	プレゼンテーションⅢ
担当講師名	クラス担任
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

クラス担任の実務経歴に従います

授業内容

この科目は、得意分野「音楽」のビジネスパーソンとして社会に適応するために必要な能力や知識の獲得を目的とする演習形式の授業です。相手の理解や納得を得るため必要な手段として、同じ内容のプレゼンテーションでも、表現ひとつで相手の反応は大きく変わってきます。プレゼンテーションⅠⅡでインプットした知識や考えを基に、実際の問題を課題としたプレゼンテーションを対外的に行い、アウトプットの場を増やし実践していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

社会問題、エンタメ業界の課題などを取り上げてテーマとして、対外的なプレゼンテーションができる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① プレゼンテーション① オリエンテーション
- ② プレゼンテーション② 30秒で話す
- ③ プレゼンテーション③ 名画で学ぶ
- ④ プレゼンテーション④ トリック写真
- ⑤ プレゼンテーション⑤ リアルコラージュ
- ⑥ プレゼンテーション⑥ 起業アイデアを考える
- ⑦ プレゼンテーション⑦ 起業のアイデアプレゼンテーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点：40% 受講態度 20% 課題：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ プレゼンテーション⑧ 良いプレゼンテーションとは
- ⑨ プレゼンテーション⑨ ブレストを整理
- ⑩ プレゼンテーション⑩ 100の質問（メモ書き～転用）
- ⑪ プレゼンテーション⑪ 100の質問（転用～応用）①
- ⑫ プレゼンテーション⑫ 100の質問（転用～応用）②
- ⑬ プレゼンテーション⑬ 身の回りで起きる課題への解決策
- ⑭ プレゼンテーション⑭ 課題を決めてプレゼンテーション～フィードバック
- ⑮ プレゼンテーション⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

平常点：40%、課題：40%、受講態度 20%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	プレゼンテーションⅣ
担当講師名	クラス担任
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

クラス担任の実務経歴に従います

授業内容

今までに習得した「論理的な思考」や「相手を巻き込む力」に加えて、アイデアや知識を基に、社会問題の解決に向けたプレゼンテーションを実際に行っていきます。
 その中で、聞き手として「問題を発見する力」、「相手の意図を理解する力」も身に付けていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

プレゼンテーションから相手の意図を理解することができる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① プレゼンテーション① 課題①
- ② プレゼンテーション② 課題①プレゼンテーション
- ③ プレゼンテーション③ 課題②
- ④ プレゼンテーション④ 課題②プレゼンテーション
- ⑤ プレゼンテーション⑤ 課題③
- ⑥ プレゼンテーション⑥ 課題③プレゼンテーション
- ⑦ プレゼンテーション⑦

中間試験評価方法・評価基準

平常点：40% 受講態度 20% 課題：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ プレゼンテーション⑧ プレゼンテーションを受ける側
- ⑨ プレゼンテーション⑨ 社会問題①
- ⑩ プレゼンテーション⑩ 社会問題①プレゼンテーション
- ⑪ プレゼンテーション⑪ 社会問題②
- ⑫ プレゼンテーション⑫ 社会問題②プレゼンテーション
- ⑬ プレゼンテーション⑬ 社会問題③
- ⑭ プレゼンテーション⑭ 社会問題③プレゼンテーション
- ⑮ プレゼンテーション⑮ 試験課題

期末試験評価方法・評価基準

平常点：40% 受講態度 20% 課題：40%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	就職ゼミⅡ
担当講師名	クラス担任
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

クラス担任の実務経歴に従います

授業内容

この科目は音楽・エンタテインメント業界に就職していくために、自分を知り、業界を知り、企業にエントリーする技術と能力獲得を目的とした講義形式の授業です。就職活動に必要な自己理解・企業研究やエントリーシート作成・面接対策などパーソナルに合わせた効果的なアプローチを学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

希望の企業から内定獲得をし、希望する企業以外からもオファーがあるような業界対応即戦力人材

授業計画（1回目から7回目）

- ①（4月中旬）就職はゴールではなく、スタートに立つこと・何のために就職したいのか
- ②（4月下旬）エントリーを進めよう・頭で考えているだけでは内定は獲得できない
- ③（5月上旬）志望動機1・応募書類で重要な志望動機を、あらためて確認する
- ④（5月中旬）自己PR・企業が選びたくなる自己PR書類をつくる
- ⑤（5月下旬）志望動機2・第3回で考えた志望動機が、自分のものになっているか？
- ⑥（5月末）応募～面接のポイント・面接に向けた準備、1分間で自己PRが出来るか？
- ⑦（6月上旬）面接に向けて・面接試験解禁、対策や練習をしていく

中間試験評価方法・評価基準

応募書類準備・応募状況・内定状況によって評価します。

平常点：20% 受講態度：50% 活動評価：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ （6月中旬）求人状況確認・企業の最新状況を確認、内定のチャンスを増やす
- ⑨ （6月下旬）再度、自己分析・応募や面接のうまくいかなかったポイントは何か？
- ⑩ （7月初旬）夏休みに向けて・違う業種に応募したり、説明会やインターンに参加を
- ⑪ （7月上旬）夏休みの予定・説明会、インターン、免許取得など、具体的リストへ
- ⑫ （7月中旬）これまでをおさらい・志望動機や自己PR、面接のポイント、日程確認を
- ⑬ （8月下旬）秋に向けて・内定辞退者と追加求人チェックでチャンスを逃さない
- ⑭ （9月上旬）就職への再確認・何のために就職するのか、自分にとって仕事とは何か？
- ⑮ （9月中旬）期末考課・応募状況、内定状況を報告 報告内容によって評価する

期末試験評価方法・評価基準

活動状況・応募状況・内定状況によって評価します。

平常点：20% 受講態度：50% 活動評価：30%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	著作権ビジネス I
担当講師名	原 一博
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

テレビ局系音楽出版社、芸能プロダクションにて音楽著作権関連業務に 20 年間従事。現在は、株式会社ベストにて音楽著作権のライセンス業務及びレーベル運営を行う。

授業内容

この科目は 1 年次「音楽著作権 I & II」に連動した内容を持ち、音楽業界にも必要な「著作権」を学び、著作権の考え方と著作物の扱い方の理解を目的とする講義形式の授業です。テキストを通して、著作権ビジネス・音楽著作権の基礎知識を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

著作権で人と物を保護して、侵害やトラブルを防ぐことができる人材

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 映画音楽・ゲームの著作権
- ② カラオケ・演劇・ライブの著作権
- ③ レンタルレコードの著作権
- ④ 音楽配信（ダウンロード）の著作権
- ⑤ 音楽配信（サブスクリプション）の著作権
- ⑥ 音楽配信（動画投稿サイト）の著作権
- ⑦ 復習

中間試験評価方法・評価基準

著作権法全体の理解が出来ているか。

平常点 50%、授業態度 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 原盤譲渡と原盤供給
- ⑨ 著作権契約の延長と終了
- ⑩ プロデュース契約
- ⑪ 音楽配信契約
- ⑫ 専属マネジメント契約
- ⑬ 実演家と放送出演
- ⑭ 復習
- ⑮ テスト（著作権及び著作権ビジネスについての筆記試験）

期末試験評価方法・評価基準

著作権法全体の理解が出来ているか。

音楽著作権ビジネスの基本を理解できているか。

平常点 50%、授業態度 25%、試験 25%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	著作権ビジネスⅡ
担当講師名	原 一博
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

テレビ局系音楽出版社、芸能プロダクションにて音楽著作権関連業務に20年間従事。現在は、株式会社ベストにて音楽著作権のライセンス業務及びレーベル運営を行う。

授業内容

この科目は、春学期に学んだ著作権法の知識を使い、音楽業界全体の権利ビジネスの構造を学ぶ講義形式の授業です。テキストを通して、著作権ビジネスの基礎知識を学修します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

著作権で人と物を保護して、侵害やトラブルを防ぐことができる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① 原盤の第三者使用
- ② プロモーションビデオの使用料
- ③ ライブビデオの権利処理
- ④ 著作権に関する判例 1
- ⑤ 著作権に関する判例 2
- ⑥ 著作権に関する判例 3
- ⑦ 復習

中間試験評価方法・評価基準

法律面での著作権を細分化したところまで理解できているか
平常点 50%、授業態度 25%、試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 海外の著作権事情 1
- ⑨ 海外の著作権事情 2
- ⑩ パブリシティ権
- ⑪ 著作権知識の復習 1（1年次春学期から秋学期における学習範囲）
- ⑫ 著作権知識の復習 2（1年次秋学期から2年次春学期における学習範囲）
- ⑬ 著作権知識の復習 3（2年次春学期以降の学習範囲）
- ⑭ テスト
- ⑮ テストの解説

期末試験評価方法・評価基準

現実的に発生する著作権使用での注意点が理解できているか
平常点 50%、授業態度 25%、試験 25%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	エンタテインメントにおける発想法 I
担当講師名	渡辺 博
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社2社(ポニーキャニオン、バップ)で30年以上制作ディレクターとして芸人、アイドル、ロックと幅広いジャンルのアーティストを担当し、独立後も音楽・エンタテインメント業界にて活躍、多岐にわたりプロデュースを手掛ける。

授業内容

この科目は音楽だけではなく一般企業にもアプローチ出来るイベントの企画力獲得を目的とした授業です。春学期では『“バズる” ビジネスプランの企画』『音楽企画プロデューサーの目線に立った作品の企画』などをテーマに、時代に即したビジネスモデルへの対応や、起業的な発想で企画提案を行うプレゼンテーションも想定した発想力を総合的に学修します。同時に歴史、社会情勢、世論、SNSなど多角的な視野を養います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

社会情勢やマーケットを敏感に読み取り、企業人としてのコミュニケーション能力と未来を見越した企画でイノベーションを提案できる人材。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① オリエンテーション
- ② イベント理解1 イベントを知り、ビジネスの隙間をさがし、アイデアに繋げる
- ③ イベント理解2 イベントを知り、ビジネスの隙間をさがし、アイデアに繋げる
- ④ ブレスト イベント案件についてリサーチ
- ⑤ ブレスト イベント案件についてリサーチ
- ⑥ まとめ 企画提案内容を纏める
- ⑦ 1クォーター末試験 限られた時間で複数のアイデアを提出

中間試験評価方法・評価基準

平常点、課題提出、欠席点、末試験

平常点：25% 受講態度：25% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ブレスト 案件について、更に考えを深める
- ⑨ ブレスト 案件について、更に考えを深める
- ⑩ 提案書作成 イベント、ビジネスモデル・事業計画、起業への提案書の作成
- ⑪ 提案書作成 イベント、ビジネスモデル・事業計画、起業への提案書の作成
- ⑫ 提案書作成 イベント、ビジネスモデル・事業計画、起業への提案書の作成
- ⑬ プレゼン実例 プレゼンコンテストでの実例学び、刺さるプレゼンテーションを知る
- ⑭ プレゼン1 プレゼンテーションを行い評価
- ⑮ プレゼン2 プレゼンテーションを行い評価

期末試験評価方法・評価基準

プレゼンの評価。出席点、欠席点

平常点：25% 受講態度：25% 試験：50%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	エンタテインメントにおける発想法Ⅱ
担当講師名	渡辺 博
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社2社(ポニーキャニオン、バップ)で30年以上制作ディレクターとして芸人、アイドル、ロックと幅広いジャンルのアーティストを担当し、独立後も音楽・エンタテインメント業界にて活躍、近年に至るまで多岐にわたりプロデュースを手掛ける。

授業内容

春学期の成果を踏まえ、秋学期では、『企業が欲しがらる広告プランを企画・立案』『音楽プロデューサーとしての総合的な発想力・プレゼン力』などをテーマに、実際の企業にイベント企画を提案していきます。提案には具体的なビジネスプランを用いて利益が出せるところまでを考え、企画書として成立させてプレゼン展開できる技術、さらに広告代理店的な視点も学びます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

現実的なイベントを企画し、ビジネスとして成立させ、その後の広告に至るまでをイメージした企画・プレゼンが出来る人材。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① フィードバック1 課題を洗い出し、整理
- ② 企画提案のプレスト 企画提案案件についてリサーチ、協賛企業
- ③ 企画提案のプレスト 企画提案案件についてリサーチ、協賛企業
- ④ 提案書作成 イベントビジネスモデル、事業計画案、プレゼン資料
- ⑤ 提案書作成 イベントビジネスモデル、事業計画案、プレゼン資料
- ⑥ プレゼン1 プレゼンテーション
- ⑦ プレゼン2 プレゼンテーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点、課題提出、欠席点

平常点：25% 受講態度：25% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ フィードバック1 課題を洗い出し、整理
- ⑨ 企画提案のプレスト 企画提案案件についてリサーチ、協賛企業
- ⑩ 企画提案のプレスト 企画提案案件についてリサーチ、協賛企業
- ⑪ 提案書作成 イベントビジネスモデル、事業計画案、プレゼン資料
- ⑫ 提案書作成 イベントビジネスモデル、事業計画案、プレゼン資料
- ⑬ プレゼン1 プレゼンテーション
- ⑭ プレゼン2 プレゼンテーション
- ⑮ 評価と纏め 企業評価・科目評価

期末試験評価方法・評価基準

プレゼンの評価。出席点、欠席点

平常点：25% 受講態度：25% 試験：50%

特記事項

学科名	ミュージックビジネス学科
科目名	ファンクラブビジネス
担当講師名	伊藤 緑
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

企業勤務時代に、企業のノベルティ制作を行う。
 アーティストプロダクション時代に、アーティストグッズの制作を行う。
 現在は、女性コミュニティ運営を行うなかで、グッズ制作を行っている。

授業内容

この科目はファンクラブにおける基本的な業務やグッズ制作の知識獲得を目的とした演習形式の授業です。実際にグッズ制作を行い、デザインや色・形などを魅力的に仕上げていく過程から創造力やマーケティング力を学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

グッズのデザインをして商品として手にするところまでを体験し、ファンとアーティストの懸け橋として、モノで才能をサポートできる人材

授業計画（1回目から7回目）

- ① この講義で学ぶこと、ファンは何かについて考える ファンになるきっかけについて考える、ノベルティについて考える
- ② 自分たちがこれまでに手にしたファンクラブグッズについて話す どんなものが喜ばれるかを考える。オンラインライブが増えた今、発送についても考える。
- ③ ものの名前の付け方、デザインの権利について学ぶ 使ってはいけない表記や色、デザインについて知る
- ④ 何を制作するかを話し合う、ブレスト 何を作りたいかをグループで考える
- ⑤ 色の決め方、見積書や請求書の見方を学ぶ いくつか候補を絞る
- ⑥ ロゴの使い方、ロゴの意味を知る。ロゴシートの確認
- ⑦ 1クォーターの学びの確認

中間試験評価方法・評価基準

ノベルティとして制作するもののデザインをすることで、制限のあるなかでの制作についての知識を獲得しているか。

平常点：40% 授業態度：30% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 予算、色数の制限のなかでデザインを行う
- ⑨ 予算、色数の制限のなかでデザインを行う
- ⑩ 予算、色数の制限のなかでデザインを行う
- ⑪ 予算、色数の制限のなかでデザインを行う
- ⑫ DIC カラーガイドを使って色を決める。
- ⑬ 決める際のポイントを考える。デザインしたものの中から制作するものを決める。
- ⑭ デザイン決定 発注の仕方と納品について。
- ⑮ 2クォーターの学びの確認

期末試験評価方法・評価基準

実際の物を作ることと、目に見えないファンを増やすということをそれぞれ考え、ファンを増やしていくことを知る 間口が広がった現在だから見えることを改めて考えてみる

特記事項